

教科書のなかの社会事業にかかる教材を読む

井上兼一

皇學館大学の井上兼一です。私に与えられたテーマは「教科書のなかの社会事業にかかる教材を読む」ということでお話しさせていただきます。講師紹介のところで冬月先生に紹介いただきましたが、私は学校教育について勉強してきたものですので、あまり社会教育や福祉の分野について知識が暗い人間です。今回は話題提供をさせていただくというお話させていただきます。自己紹介について書いております。皇學館大学に「皇室と福祉」研究会というものがあり、そこに参加をすることになりました。それで、素朴な疑問なんです、「戦前期の子どもたちは、社会事業・福祉に関する教育内容を学ぶ機会があったのか？」という疑問からいろいろと調べていったことがあります。以前に光明皇后に関する論文をまとめる機会があり、今回の報告でも国定教科書の中で社会事業や慈善活動に

関する教材について、どういふものがあるのか紹介していこうと思っております。光明皇后に関する話についてはレジュメに書いているように、歴史教科書の中に聖武天皇と光明皇后が扱われる教材がありました。内容は、聖武天皇の御事績が中心で、その終わりのところに光明皇后の慈善活動について少し言及されるという程度でした。その後、国民学校の国語に光明皇后を扱った説話教材が出てきました。国定教科書の改訂と教材の変遷ということについてまとめたことがあります。今回、他にも教材があるんじゃないかと考え、国定教科書を調べてみました。特に修身の教科書を中心に見ていき、レジュメに国定教科書の第一期から第五期に関しての教材を抽出してみました。しかしながら、選定するのが非常に難しく、これは社会事業に関する教材と言えるのかなと判断に困ることがありました。一

応表に整理してみました。あくまでも仮の表というように思ってください。修身の教科書をずっと見ていくと、定番となるような教材があるということに気がきまして、そのいくつかを紹介していきます。

皆さんに資料をお配りしておりますが、定番としてはナイチンゲールを扱った「博愛」教材、「皇后陛下」「明治天皇」「慈善」という教材があります。その他にも地域社会の発展に貢献した人物や篤志家を描いた教材、天然痘のワクチンを開発したジェンナーの教材を含めて良いのか分からないところもありますが、社会貢献した方々の教材というのが多くありました。講談社『日本教科書大系』から教材を印刷してお配りしております（資料No. 1～6）。その中から皇室の皇后や明治天皇の記述の部分を紹介いたします。今画面に示しているのは国定第二期の教材で、皇后陛下の教材になります。右側が「尋常小学修身書巻三」とありますので、尋常小学校三年生で扱われていた教材です。左側が「巻五」ですので五年生の教材です。全部読むと時間がありませんのでご覧ください。「巻三」では簡潔に、皇后陛下が傷病者のために病院にお見舞いに行ったという、そういう記述です。しかし、「巻五」では詳しく丁寧に記載しております。

「第二課 皇后陛下」

皇后陛下は教育の事に深く御心を用ひさせ給ひ、さきに東京女子師範学校に

みがかずば玉も鏡もなにかせん

まなびの道もかくこそありけれ

といふ御歌を賜ひ、又華族女學校を建てさせ給ひて「金剛石」「水は器」の御歌を賜へり。

皇后陛下は我が国の産業にも御心をとどめさせ給ひ、かつて宮中にて蚕を養ひ給ひしことあり。又赤十字社事業の発達を思召さるること深くして、日本赤十字社総会には常に行啓あらせらる。

明治三十七八年戦役の時、皇后陛下は出征軍人の身の上を思ひやり給ひて御手づから包帯を造りて下し給ひ、又傷病者を病院に御慰問あらせられしなど、御仁徳の高きは国民のあふぎ奉る所なり。」

後半部分を読みます。「皇后陛下は我が国の産業にも御心をとどめさせ給ひ、かつて宮中にて蚕を養ひ給ひしことあり。また赤十字社事業の発達を思召さるること深くして、日本赤十字社総会には常に行啓あらせらる。また、明治三十七、八年戦役の時、皇后陛下は出征軍人の身の上を思いやり給ひて御手づから包帯を造りて下し給ひ、また、傷病者を病院に御慰問あらせられしなど、御仁徳の高きは国民の仰ぎ奉るところなり。」と、

昭憲皇太后に関してこのように叙述されております。

資料No.2の明治天皇に関する教材について、「天皇陛下」という教材名ですが、これは第二課から三課、四課、五課と分けて記されております。第五課の後半部分に注目してください。

「第五課 天皇陛下（つづき）」

（前半は省略）

陛下は至仁至慈にわたらせられて我等臣民を憐れませ給ふ。天災地変等ある時は侍従を遣はされて臣民の疾苦をなぐさめ、又御救恤金を下し賜へり。

又明治三十年英照皇太后の大喪にあたり、慈恵救済の資として御内帑金四拾萬円を各地方に分賜せられたり。更に同四十四年二月十一日紀元節の当日、無告の窮民の医薬給せずして天寿を全うせざることを深く憐れませ給へり。我等臣民たる者いかなぞ大御心の有りがたきに感泣せざらんや。」

「救恤金を下し賜へり」「慈恵救済の資として御内帑金四拾萬円を各地方に分賜せられたり」さらに「明治四十四年二月十一日紀元節の当日、無告の窮民の医薬給せずして天寿を全うせざることを深く憐れませ給へり」などの叙述が見られます。私は

戦前期の国定教科書の研究をやってきて、何度も読んでいます。戦前ですが、このように救恤金や御下賜金のこと記されているというのを今回改めて気付くことができました。第三期以降の「天皇陛下」について、画面の左下に記しておりますが、教材の表記が簡素になるという変化が見られます。先に紹介した国定第二期の教材が非常に詳しいものでした。

資料の続きですが、国定第三期と第四期について、この辺りは内容が共通してきます。昭和期に入って教科書の内容に部分修正が施されて、「皇后陛下」そして「皇太后陛下」という教材が登場します。資料No.3の「皇后陛下」教材をご覧ください。これは香淳皇后に関する内容です。

「二二六 皇后陛下」

（前半は省略）

陛下は、皇后におなりあそばしてから、日本赤十字社のそくくわいにお出でになつて、しごとがしだいにと、のつて来たことをおほめになり、「みんな心を合はせて、此のしごとを一そう進めて行くやうにせよ。」といふ、ありがたいおほしめしのおことばをたまはりました。

昭和六年に満州事変の起つた時、陛下は満州へ行つて居る我が軍人の身の上をお思ひやりになつて、寒さをしのぐために、まわたをたまはり、また、ごじしんではうたいをお

作りになつて、きずを受けた人たちにたまはりました。」

この後半に、皇后が日本赤十字社の総会においてになつて、仕事が次第に整つてきたことをお褒めになり、みんな心を合わせてこの仕事を一層進めていくようにせよというありがたい思召しのお言葉をたまわりました。そして、満州事変後の皇后の活動について言及されています。さらに資料No. 4の「皇太后陛下」を紹介します。これには貞明皇后のことについて描かれています。

「第二十一課 皇太后陛下
(前半は省略)

陛下は、博愛・慈善の事業に深く御心をお用ひになつて、日本赤十字社総会には毎回行啓あらせられ、赤十字社の事業が発達するやうにお望みになりました。

大正十二年九月、関東地方に大地震があつた時、陛下は日光の御用邸に御滞在中でありましたが、罹災者の身の上を大そう御心配あそばして、間もなく東京に還啓あらせられ、三日にわたつて、市内の病院や救護所などを御見まひになりました。

還啓の日には、上野駅にお着きになると、宮城へはお帰りにならず、すぐ上野駅に成らせられて、市中の焼けあとを

御覧になり、それから東京市の救療所にお立寄りになりました。陛下は、仮の病室のことで、雨の日などは寒くはあまるまいかと御心配になり、又、寝台が余りに粗末なので、体が痛くはないであらうかと御同情あそばされました。又一人の手が折れた年よりをおいたはりになつて、大切にするやうにと仰せられました。

翌日は、日本赤十字社病院に行啓あらせられましたが、赤んぼうの泣いてゐるのを御覧になつて、牛乳の吸口を御親ら其の口にくくませておやりになりました。又還啓の時、地震で親をなくした子供たちがげんくわんの前で、お見送り申し上げてゐるのに御目をとめさせられて、おそれ多くも其の側までお出でになつておいたはりになりました。其の年も暮に近づき、寒さも次第に加つて来ましたので、陛下はたくさん綿入をお作らせになつて、病院にはいつてゐる罹災者にたまはりました。」

日本赤十字社のことや、大正一二年九月の関東大震災の後に罹災者を慰問された御事績について記されております。関東大震災の慰問については、実際に写真が残っていて、教科書の挿絵とまったく同じ写真が残されております。このように史実に即して教材化されておりました。「皇太后陛下」教材については、教材の配置に注目したいと思います。レジュメに記してい

るように、「博愛」という道徳的価値に即した教材としてナイチンゲールを描いた教材がほとんどの修身教科書に登場しています。この教材の後に皇太后陛下の教材が置かれていることは日本赤十字社や慈善事業に取り組みられていることと関連させる意味があつたものと思われま

話を戻して、「慈善」教材というところで、和気広虫、石井十次、瓜生岩という人物教材があります。「慈善」という教材名がついておりますが、内容はいずれも孤児救済に力を尽くしたこれらの人物について描かれています。これらは修身教科書のすべての期を通して、共通して登場しております。登場する人物が広虫だったり石井だったり人物の変化はありませんが、「孤児救済」という一貫したテーマで教材が作成されていたことは、個人的な発見で驚きました。教材を読み上げる時間がありませんので、配布資料を各自でご覧ください。

レジュメの終わりのところに三点書いておりますが、上級学校へ進学する機会が乏しかった時代にあつて、教科書は子どもたちに多大な影響を与えたのではないかと思ひます。学校に通つて、子どもたちにとって身近な教科書というのは、社会を知る一つのメディア、媒体だつたと思ひます。子どもたちは、それらを通じて世の中について学んでいったと考えます。二つ目について、教科書にさまざまな人物の事績が取り上げられており、子どもたちは社会事業・慈善活動について学校の中で学ん

でございました。教材については、先ほども述べたように、史実に即してその功績というものが描かれているのが特徴でした。三つ目について、修身における道徳的諸価値とそのロールモデルが提示されておりました。子どもたちはそれを通じて実社会での生き方を学んでいたのが、戦前期の修身教育の特徴だつたのではないかな、と思うところです。二〇分というところで早口になりましたけれども、このようなところで報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

